

命の重み

56歳 男性

平成22年1月、私の職場に警察から、「息子さんが事故に遭い意識不明です。」との電話がありました。

私は、「命だけは助かって欲しい。」と、ただ、それだけを祈り病院へ駆けつけましたが、着いた時には無念にも永久に言葉をかわすことが出来ない状態でした。

事故の内容は、青信号で交差点を直進中、対向車が右折してきたため衝突したものでした。加害者は、直進してきている二輪車に気付いていながら停止することなく、早回りする形で交差点の中に進入していたのです。

まさに殺人行為としか考えられません。

ほんの10秒、いや3秒間でもちゃんと停止していれば、悲しい事故は起こらなかったのに。

加害者は、自分の過失を認めるわけでもなく、素直に謝罪するでもなく、終始、言い逃ればかり主張していました。

主張の内容については、法廷でも裁判官が不審そうに尋ねましたが、一貫して自分の主張を訂正することはありませんでした。

複数の証人の方と証拠に基づいた事故調査なのに。呆れるばかりです。

判決は、2年9か月の刑でしたが、執行猶予付きなので刑務所に入ることなく、今まで通りの生活が出来るのです。

加害者には、小さな子どもがいることも考慮され執行猶予が付いたようです。

家庭環境がどうあれ、罪は罪として処罰されるべきだと思います。

事故そのものの原因と結果で刑罰を下すべきではないでしょうか。

刑務所に入り「命」について、じっくり見つめ直して欲しいです。

特に今回の事故は、極めて悪質であったためなおさらのことです。

時は過ぎてしまうばかりですが、私の心は、あの日に止まったままです。

夢や希望をたくさん抱き、人生今からという時に命を奪われてしまうとは。かわいそうでなりません。

「あんなに元気になっていたのに」「何故」「どうして」と思い、いまだに信じられないでいます。

この世にはいないと分かっているけど、心は受け入れきれない状態です。

それまでの私は、町内行事に積極的に参加し、異業種の人たちと交流を深め、有意義な時間を過ごしていました。

しかし今では、楽しい場にいることが苦痛で、一度も参加していません。

また、人生に対し前向きでしたが、もうどうでもいい気持ちです。

人生、夢も希望もなくなりました。

ある日片付けをしていたら、息子の中学生時代の体操シャツが出てきました。

胸のところに名前が書いてあるのです。

普通であれば処分するのですが、今となっては処分することはできませんでした。

息子のタンスに保存することにしました。

元気な姿を思い出すと、その場に現れてくるような気になるのですが、いやそうではないのだと思い直すと、無性に悲しみが自分を打ち砕くのです。

いろんな場面において、「もし、この場に息子がいたら何て言うだろう。」と、しょっちゅう思います。その都度、また悲しみが溢れ出ます。

涙が溢れ、拭いても拭いても涙が溢れ出て、工作中でもとめどなく溢れ、この涙は一体どこから湧き出てくるのだろうかと思うくらいです。

本来であれば、平成24年4月から社会人でした。

ネクタイの結び方を教えたかった。

仕事の話もかわしたかった。

大人同士の話もしたかった。

悔しくてたまりません。

あれ以来、我が家には正月はありません。

新年を祝う気にもなれず、「明けましておめでとう」は、縁遠い言葉です。

我が家の年中行事にあるのは、「彼岸」と「お盆」だけです。

春の桜の花を見ても、逆に悲しいだけです。

私の宝である家族の尊い命を奪われたことは、人生の中で一番悲しいことです。

今まで私は、健康に気遣っていましたが、もうどうなってもいいという気持ちですから長生きしないでしょう。

それでもいい。あの世で息子に会うことができるのであれば、すぐにでも行きたい。

そして私は、死ぬまで加害者を忘れない。